

船舶事故等調査報告書

平成26年12月18日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | |
|-------------|---|
| 事故等番号 | 2014那第30号 |
| 事故等種類 | 浸水 |
| 発生日時 | 平成26年6月21日 22時00分ごろ |
| 発生場所 | 沖縄県宮古島市宮古島北方沖 宮古島市所在の池間島灯台から真方位019°13海里付近 (概位 北緯25°08.5′ 東経125°18.8′) |
| 事故等調査の経過 | 平成26年6月25日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。 |
| 事実情報 | |
| 船種船名、総トン数 | 旅客船 きらり、9.1トン |
| 船舶番号、船舶所有者等 | 291-21622山口、株式会社河本土木建設 |
| 乗組員等に関する情報 | 船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 |
| 死傷者等 | なし |
| 損傷 | 左舷船尾部船底外板に亀裂 |
| 事故等の経過 | 本船は、船長ほか1人が乗り組み、回航のために山口県上関町 <small>かみのせき</small> から沖縄県竹富町 <small>いりおもて</small> 西表島に向け、宮古島北方沖を約10ノットの対地速力で航行中、平成26年6月21日22時00分ごろ、船長が、船尾付近が沈み、船体が重くなったように感じたことから、客室内を確認したところ、浸水を認めた。 船長は、排水ポンプにより排水作業を行ったが、客室内の海水量が増え、乗組員と2人でバケツによるくみ出しを行うとともに、海上保安庁に救助を要請した。 本船は、付近を航行していたタンカーによりえい航され、その後巡視船に引き継がれ、宮古島市 <small>ひらら</small> 平良港に入港した。 |
| 気象・海象 | 気象：天気 晴れ、風向 南、風力 5、視界 良好 海象：波高 約2m |
| その他の事項 | 本船は、本事故後に上架して点検したところ、FRP製船体の左舷船尾部船底外板に亀裂が生じており、同亀裂の表面には、損傷部を塞いだ積層部に剝離が生じた形跡があった。 |
| 分析 | |
| 乗組員等の関与 | なし |
| 船体・機関等の関与 | あり |
| 気象・海象等の関与 | 不明 |
| 判明した事項の解析 | 本船は、宮古島北方沖を航行中、亀裂箇所を塞いでいた積層部が剝離したことから、亀裂箇所から客室に浸水したものと考えられる。 |
| 原因 | 本事故は、夜間、本船が、宮古島北方沖を航行中、亀裂箇所を塞い |

| | |
|-----------|--|
| | <p>でいた積層部が剝離したため、亀裂箇所から客室に浸水したことにより発生したものと考えられる。</p> |
| 参考 | <p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 経年使用された船舶で、沿海域を出て航行するときは、十分な点検整備を行うこと。 |